



3/6 たくさんの本をありがとう 図書館(室)にお礼の手紙

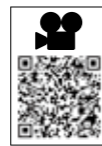
菊池幼稚園の園児が泗水図書館と中央公民館図書室を訪れ、いつもたくさんの本を貸し出してもらうことに対しお礼の手紙と読書感想画を贈りました。泗水図書館と公民館図書室では団体貸し出しを行っており、市内の教育施設や福祉施設などに約1カ月間100冊の本を貸し出す制度を設けています。

今回贈られた感想画は泗水図書館と中央公民館で5月15日まで展示していますので、ぜひご覧ください。



泗水図書館にお礼の手紙と感想画を送る菊池幼稚園の園児たち

3/4 こだわり弁当できました! 春の道の駅弁新作発表会



道の駅「泗水」養生市場で販売する弁当の新作発表会があり、地元生産者など8グループが11種類の新作弁当を出品しました。健康志向の弁当や春らしい彩りで若い女性をターゲットにした弁当などが並び、試食会では消費者から味、盛り付けなどの意見を求めました。試食した小西淑子さんは「地元の食材を使った手作り弁当なので安心して食べられます。値段もお手頃でおいしい」と笑顔を見せていました。



試食会ではこだわりの素材で作られた色とりどりのオリジナル弁当が並びました

3/7 「七城のこめ」が6年連続 8回目の特A受賞

日本穀物検定協会主催 2013年産米の食味ランキングで、熊本県城北地区代表として出品された「七城のこめ」が最高評価の特Aを受賞し、報告祝賀会が七城温泉ドームで開催されました。特A受賞は6年連続で8回目。農業や化学肥料を減らす環境に配慮した米の栽培と食味値を高める取り組みが高い評価につながりました。今回の受賞は、平成28年に本市で開催される「米・食味分析鑑定コンクール」への弾みとなりました。



受賞した「七城のこめ」の生産者の皆さん

3/7 菊池市記憶の記録・伝承 事業報告会

菊池市記憶の記録伝承事業報告会が旧松倉邸で開かれ、関係者など約40人が参加しました。この事業は、市民で構成する菊池市文化資源活用地域づくり実行委員会が実施しているもので、地域に残る言い伝えや民話、郷土料理、祭りなどの「まちの記憶」を記録して残していく取り組みです。報告会では聴取した言い伝えや古い写真、昔の街並みを再現した地図などを紹介。基調講演や伝承紙芝居も披露され、参加者は地域の歴史を学んでいました。



伝承紙芝居を楽しむ参加者の皆さん

2/21・28 将来の夢を諦めない 泗水中立志式

泗水中学校で立志式があり、2年生135人が出席しました。21日のパート1では、泗水町出身のシンガーソングライターMICAさんのコンサートで生徒たちを激励。「自分を信じて必ず自分の思う道を進んでください」と伝えました。28日のパート2では菊池市身体障がい者福祉協議会会長の黒田章さんが「車いすマラソンにかけた夢」と題し講演。「努力するだけ夢は膨らむ。夢を大きく持って頑張っしてほしい」と生徒たちに訴えました。



1. 熱唱するMICAさん。生徒たちも一緒に歌いました 2. 講話する黒田さん 3. レース用の車いすを披露

3/2 おおがともこ 大賀朋子さん 県家庭教育支援功労者表彰

菊池市地域教育コーディネーター(家庭教育支援)の大賀朋子さんが、熊本県家庭教育支援功労者表彰を受賞しました。この表彰は、くまもと家庭教育支援条例で規定している県の施策「くまもと家庭教育10か条」「くまもと『親の学び』プログラム」などを活用した家庭教育支援に功労のあった個人に贈られるものです。大賀さんは「家庭や地域社会で大人同士がつながりを深めながら、子どもたちを見守り育てていくことが大切です」と話しました。



受賞した大賀さん

2/27 児童生徒の善行をたたえて 「里仁賞」

一般社団法人菊池教育会(木原昭三会長)が、菊池郡市の小中学生の善行をたたえる「里仁賞」を設け、菊池教育会館で表彰式を行いました。表彰式には、下校中に火災の消火を手伝った泗水小児童4人、学校の正門付近を毎朝清掃している隈府小6年生のほか、合志小と菊陽北小の児童ら団体・個人4組が出席。木原会長は「仁の心がある子どもが増えればまちが豊かになる。他の児童生徒の模範になるようこれからも頑張してほしい」と語りました。



左から隈府小6年代表のクレメンツ泰良くん、泗水小の出口瑠衣さん、田原亜弥さん、上村真琴さん(田端郁美さんは欠席)

3/1 きくち観光物産館 来館者300万人達成!

第3セクターきくち観光物産館の来館者が300万人を達成し、記念イベントが行われました。同館は平成4年3月に開館。22年間で300万人の買い物客を迎え入れてきました。

300万人目となったのは、ほぼ毎日買い物に訪れるという幸山まりえさん(高野瀬)。首藤美津雄前支配人から花束と記念品が贈られました。幸山さんは「驚いたけどうれしい。祖父と祖母に良いプレゼントができました」と喜びを語りました。



首藤前支配人から花束を受け取る幸山さんとご家族



3/15 プロ選手に学ぶ Jr. バドミントン教室

市内小学生と郡市クラブチームを対象としたバドミントン教室が菊池市総合体育館で開催され、約120人がプロ選手の手ほどきを受けました。ロンドン五輪銀メダリストの垣岩令佳選手をはじめ、バドミントン日本リーグ女子ルネサスの選手とコーチの5人が基本プレーなどを指導。参加した児童らはスマッシュの打ち方やクリアの仕方などを熱心に学んでいました。合間にはリレーや鬼ごっこなどもあり、プロ選手とのふれあいを楽しんでいました。



垣岩選手からスマッシュの打ち方を教えてもらう児童

3/15 日本一の桜の里を目指して 七城町で植樹会

「菊池さくら千年プロジェクト」の一環として、七城町高田・加恵地区で桜の植樹会があり、約50人の市民が参加しました。このプロジェクトは日本一の桜の里を目指して始まったもので、主に河川堤防や道路沿いへの桜の植樹と管理を行っています。この日はソメイヨシノ54本を植樹。参加者は「今日植樹した桜が孫の代まで元気に花を咲かせてくれたらうれしい」「海までつながる桜並木を想像するとわくわくします」と話していました。



道路沿いに桜を植樹する参加者の皆さん

3/11 卒業生を送る会 「ワンダーぶんこ」

卒業生を送る会が泗水東小学校であり、同校で読み聞かせを行っているグループ「ワンダーぶんこ」(内野さと恵会長)が、卒業する子どもたちに最後の読み聞かせを行いました。

同グループが「花さき山のあやちゃん」や「12の贈り物」などを披露すると、これまでの活動に対し卒業生からお礼の品が贈られました。内野会長は「6年生にとっては最後のワンダーぶんこ。どこかで思い出してくれたらうれしいです」と述べました。



ワンダーぶんこの読み聞かせを聞く卒業生たち

3/10 ものづくりを学習 菊池女子高生が会社見学

菊池女子高1年生12人が、市内の縫製会社を訪れ、衣料製作の現場を見学しました。同校では衣類などの製造業に就職を希望する生徒が多いことから、実際の現場を学んでもらおうと学校が企画。生徒たちは裁断から袋詰めに至るまでの工程を見学し、手際よく仕上がっていくものづくりの現場に時折感嘆の声を上げていました。見学した宮崎玲菜さんは「ものづくりの技術がなくなってしまうように残していくことが大切だと知りました」と話しました。



パジャマが完成するまでの工程を見学する生徒たち

3/21 先生ありがとう 泗水小で最後の授業

昭和55年の泗水小卒業生21人が、当時担任だった上土井和治さん(熊本市)の退職記念として最後の授業を開きました。上土井さんは昭和52年、泗水小に赴任。教え子の卒業とともに転任するまで教鞭を振りました。授業では春分の日になんだ季節の話や思い出話に花を咲かせ、教え子一人一人が恩師への感謝の言葉を送りました。教え子の中山竜一さんは「今後もお付き合いを続けたい」と話しました。



最後の授業で教壇に立つ上土井さんと教え子の皆さん

3/16 菊池市認知症市民フォーラム が開催されました

菊池市七城公民館で開催され、約170人の市民が参加しました。「つなげよう、認知症支援」をテーマに認知症の人や介護家族の理解、地域で支えあっていくことの大切さを呼びかけました。

講演会では、高知県にある医療法人鳴子会菜の花診療所の北村ゆり先生が、認知症患者の支援策について講話。認知症啓発劇では、劇団「くらたけ」の皆さんが認知症への気付きから介護サービスへつなげるまでを分かりやすく演じました。



具体例を交えながら講話する北村先生

3/13 菊池女子高生が 子育て支援センターを見学

菊池女子高2年生13人が子育て支援センターを訪れ、活動や子育てについて学習しました。将来の出産や子育てに対して不安を持つ生徒が多かったことなどから同校が企画。生徒たちは担当の保育士から活動内容を聞いた後、利用者の親子3組とふれあいながら子育ての体験談などを聞きました。初めて赤ちゃんに触れた柴田明白香さんは「子育ては大変ですが喜びも大きいことを知りました」と笑顔を見せました。



子育て支援センター「さくらんぼHOUSE」の利用者から子育ての体験談を聞く生徒たち

3/11 学びやを美しく 菊池北小児童が清掃作業

菊池北小児童約50人が、昨年同小に統合された龍門、迫水、水源の3校を訪れ清掃作業を実施しました。お世話になった旧校に卒業の報告とお礼の気持ちを伝えようと同小が企画。児童たちは出身校ごとに分かれ、地域のひとと一緒に閉校記念碑周辺の草取りやごみ拾いなどで汗を流しました。旧龍門小で作業に参加した原田一太くんは「久しぶりに学校に来たので掃除のやりがいがあります。これからもきれいにしていきたいです」と話しました。



旧龍門小で雑草をリヤカーに載せて運ぶ児童たち



3/27 第1回菊池市学校規模適正化審議会

第1回菊池市学校規模適正化審議会は、菊池市福祉会館で開催されました。この審議会は、区長会やPTAなどで組織され、学校規模や通学区の適正化について調査審議するものです。会議では、会長に石橋敏郎熊本県立大学教授、副会長に茅嶋祐一さんが選出され、有田征二教育委員長から石橋会長に「限府小学校児童に係る通学区の適正化について」の諮問書が渡されました。これから約1年をかけて審議を行い答申が出される予定です。



有田委員長④から石橋会長⑤へ諮問書が手渡されました

3/25 くまモンパパもやってきた! KDSから傘を寄贈

KDS 菊池自動車学校と熊本ドライビングスクールから幼稚園や保育園を卒園する市内の子どもたちに交通事故から身を守るための「スマートドライバー傘」が贈られました。この日は菊池さくら保育園で贈呈式があり、くまモンの生みの親で熊本スマートドライバープロジェクトを提唱する小山薫堂さんも来園。園児たちは「もらった傘は大事に使います」と応えました。サプライズでくまモンが登場すると園児や保護者から歓声が沸いていました。



小山さん④、くまモン、KDS 代表取締役の永田佳子さん⑤と菊池さくら保育園の園児たち

3/24 菊池北中女子テニス部九州大会初出場

菊池北中女子テニス部が第17回熊本県中学生新人テニス大会で準優勝を飾り、創部初となる九州大会への切符を手に入れました。

部員8人が出場報告のため市役所を訪問。江頭市長から「大会を楽しんで、悔いのないよう頑張ってください」と激励を受けました。主将の古川美咲さんは「多くの人たちから応援を受けてここまでできました。期待に応えられるよう頑張りたいです」と決意を述べました。



九州大会初出場を果たした菊池北中女子テニス部の皆さん

3/23 一族の歴史を紐解く 菊池武光シンポジウム

菊池武光シンポジウムは菊池文化会館で開催され、約800人が菊池一族の歴史を学びました。基調講演では服部英雄九州大学大学院教授が「アジアから見た菊池一族」と題し講話。後半のパネルディスカッションでは工藤敬一熊本大学名誉教授ら5人が「一族は東アジアとつながりがあった」「日本史を動かした武士である」「戦だけでなく物流と経済を発展させた実績を掘り下げることも大事」など意見を交わしました。



パネルディスカッション

3/30 いつまでも若々しく 老人クラブ芸能大会

第9回老人クラブ芸能大会（菊池市老人クラブ連合会主催）は、菊池市文化会館で開催され、市内の老人クラブ42団体から約300人が参加しました。

参加者は練習の成果を十分に発揮し、日舞やカラオケなどを披露。会場は満席になるほどのにぎわいでした。

会場は元気いっぱいの踊りや歌に笑いと笑顔に包まれ、実行委員による踊り「菊池川今昔」でフィナーレを迎えました。



フラダンスを披露する参加者

3/28 竜門ダム湖で ワカサギ卵のふ化箱設置

菊池川漁協（富田正剛組合長）が、竜門ダム湖畔にワカサギの卵（約700万粒入）のふ化箱を設置しました。卵は2週間くらいでふ化し、稚魚たちはダム湖を回遊します。ダムには外来魚であるブラックバスが大量に発生し、ワカサギの卵や成長期の稚魚を食べてしまうため、同漁協ではブラックバスの退治にも力を入れています。

設置した組合員は「ワカサギ釣りをとおして自然を楽しんでもらいたい」と話していました。



ダム湖にワカサギふ化箱を設置する組合員の皆さん

3/26 憩いの森公園がくまもと景観賞「地域景観賞」を受賞

泗水町吉富にある「憩いの森公園」が第26回くまもと景観賞で部門賞の「地域景観賞」を受賞しました。この賞は地域の景観形成に功績のあるものに与えられる賞です。

同公園は2.2haの近隣公園で、地域の要望や気候風土に配慮し造られています。今はまだ若木が多い公園ですが、5～10年後にはこの地に根付いた地域に愛される憩いの森公園になることが期待されています。



受賞した「憩いの森公園」

3/25 (株)荒木建設が登録第1号 消防団協力事業所表示制度

地域防災体制の充実を図る「消防団協力事業所表示制度」の市内事業所登録第1号に(株)荒木建設を認定し、表示証を交付しました。この制度は、事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて地域防災体制がより一層充実されることを目的とした制度です。「消防団協力事業所」として認められた事業所は、表示証を社屋に提示でき、表示証のマークを自社ホームページなどで広く公表することができます。



左から岩木憲文前菊池市消防団長、荒木英行荒木建設会長、江頭市長